

2017年3月期 決算説明会



株式会社SUBARU

専務執行役員CFO 岡田 稔明

2017年5月9日

2017年3月期 決算サマリー



2017年3月期 実績

- 連結販売台数、連結売上高は5期連続で過去最高を記録。
- 連結損益は、販売台数の増加や原価低減の進捗などがあったものの、諸経費等および試験研究費の増加、為替変動が影響し、減益。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主 当期純利益	連結販売台数
実績 (対前年実績)	3兆3,260億円 (+937億円)	4,108億円 (-1,548億円)	3,943億円 (-1,826億円)	2,824億円 (-1,543億円)	1,064.5千台 (+106.7千台)

2018年3月期 計画

- 連結販売台数、連結売上高は過去最高を計画。
- 販売台数の増加や為替レートを円安に見込む影響を織り込むものの、諸経費等および試験研究費の増加、原材料市況等の影響により、営業利益では減益。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主 当期純利益	連結販売台数
計画 (対前年実績)	3兆4,200億円 (+940億円)	4,100億円 (-8億円)	4,100億円 (+157億円)	2,850億円 (+26億円)	1,105.5千台 (+41.0千台)



2017年3月期 実績

通期実績 連結完成車販売台数



(千台)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減
登録車	111.6	126.4	+14.8
軽自動車	33.7	32.5	-1.2
国内合計	145.3	158.9	+13.6
米国	582.7	667.6	+84.9
カナダ	47.6	53.1	+5.5
ロシア	5.7	5.3	-0.4
欧州	41.8	40.9	-0.9
豪州	44.6	49.1	+4.5
中国	44.4	44.0	-0.4
その他	45.8	45.6	-0.3
海外合計	812.6	905.6	+93.0
合計	957.9	1,064.5	+106.7

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

※ 中国：暦年決算1～12月

3

2017年3月期 通期の連結販売台数は、106万4千5百台となりました。
昨年度は95万7千9百台でしたので、10万6千7百台の増となりました。

国内は、1万3千6百台増、その内登録車が1万4千8百台の増。
海外は、9万3千台の増。米国8万4千9百台の増が一番大きな要因です。

その他、カナダ、オーストラリアが通期でも過去最高で、各約5,000台の増となりました。
米国については、SIAが能力を增強したということもあり、「レガシィ」「アウトバック」が増えたということが要因です。

通期実績 連結業績



(億円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減
売上高	32,323	33,260	+937
国内	6,054	6,503	+449
海外	26,269	26,756	+488
営業利益	5,656	4,108	-1,548
営業外損益	+114	-165	-279
経常利益	5,770	3,943	-1,826
特別損益	420	4	-417
税前利益	6,190	3,947	-2,243
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,367	2,824	-1,543
単独為替レート	¥121/US\$	¥108/US\$	-¥12/US\$

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

4

次に、損益の業績です。

連結売上高は自動車販売台数の増加による売上構成差の改善+3,796億円がありました。一方で、為替レート差の影響-2,788億円、カンパニー等での売上減少-71億円を吸収し、前年同期比937億円の増収となる3兆3,260億円と、過去最高を記録しました。

営業利益につきましては、前年同期比1,548億円の減益となる4,108億円となりました。

営業外が-165億となり、経常利益は1,826億円の減益となる3,943億円。

特別損益については、昨年は「AH64D」関係の裁判に勝訴し、特別利益482億円の計上ありましたので、その分の差が出ています。

税前利益は、前年同期比2,243億円の減益となる3,947億円となりました。

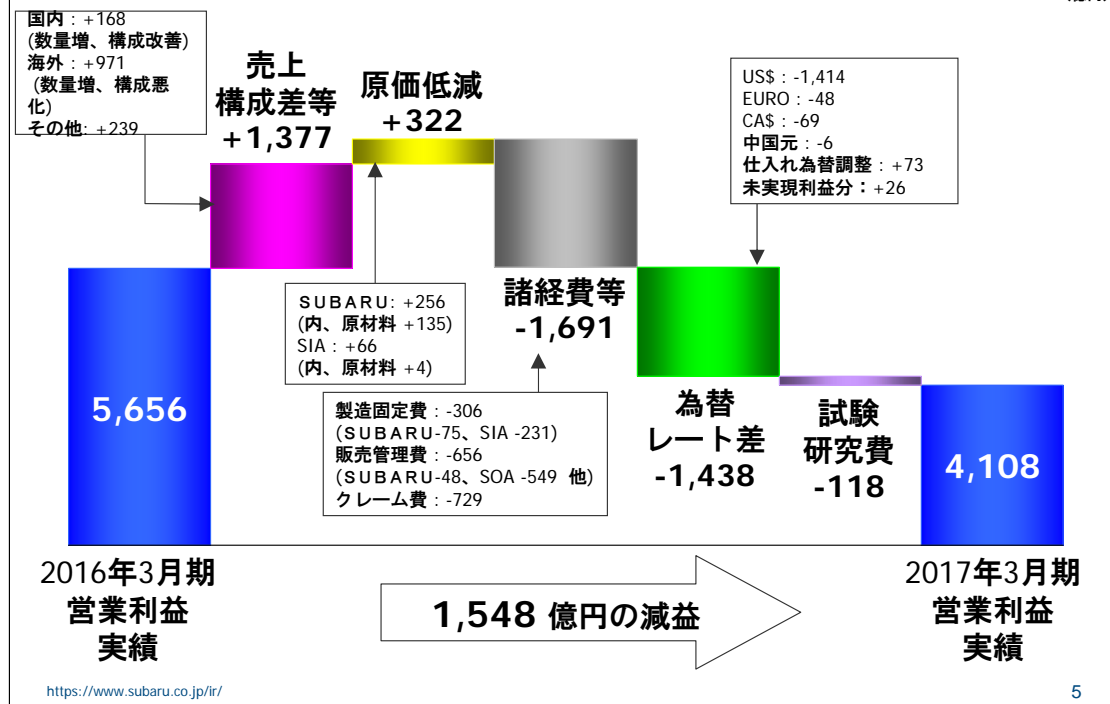
親会社株主に帰属する当期純利益は、2,824億円となり、前年同期比1,543億円の減益となりました。

為替条件については、昨年度は121円、今年度は108円となり、四捨五入して、約12円の円高となっています。

通期実績 営業利益増減要因



(億円)



5

続きまして、営業利益の増減の要因です。
 前期実績5,656億円から今期実績4,108億円へと、1,548億円の減益となりました。

増益要因は、
 <1>まず初めに、売上構成差等で、+1,377億円です。

①国内は+168億円、②海外が+971億円、③その他が+239億円です。

①国内の内訳は、数量差が+87億円、構成その他が+81億円となります。
 特にインプレッサ、レヴォーグの2車種で、1.6Lよりも2.0Lモデルの比率が増えたことが、構成面で収益に繋がりました。

②海外の内訳は、数量差が+995億、構成差が-24億となりました。
 中国・欧州市場で少し苦戦をしており、若干の価格を見直しを実施した為、マイナスとなりました。
 主力市場であるアメリカでは、数量・構成共に大きく改善しました。

<2>次に、原価低減です。+322億円の改善となりました。
 SUBARU本体が+256億円。内訳は、原価低減が+121億円、原材料+135億円です。
 SIAは、+66億円となりました。内訳は、原価低減が+62億円、原材料が+4億円です。
 原材料について、4億は比率として低いように感じられると思います。
 これは昨年度は生産が繁忙で部品のAIR輸送が発生した為、単価として輸送費が高くなりました。
 この点が含まれるためマイナス面があり、原材料だけだと市況は良いのですが、数字としては+4億となりました。

<3>次に、諸経費についてです。

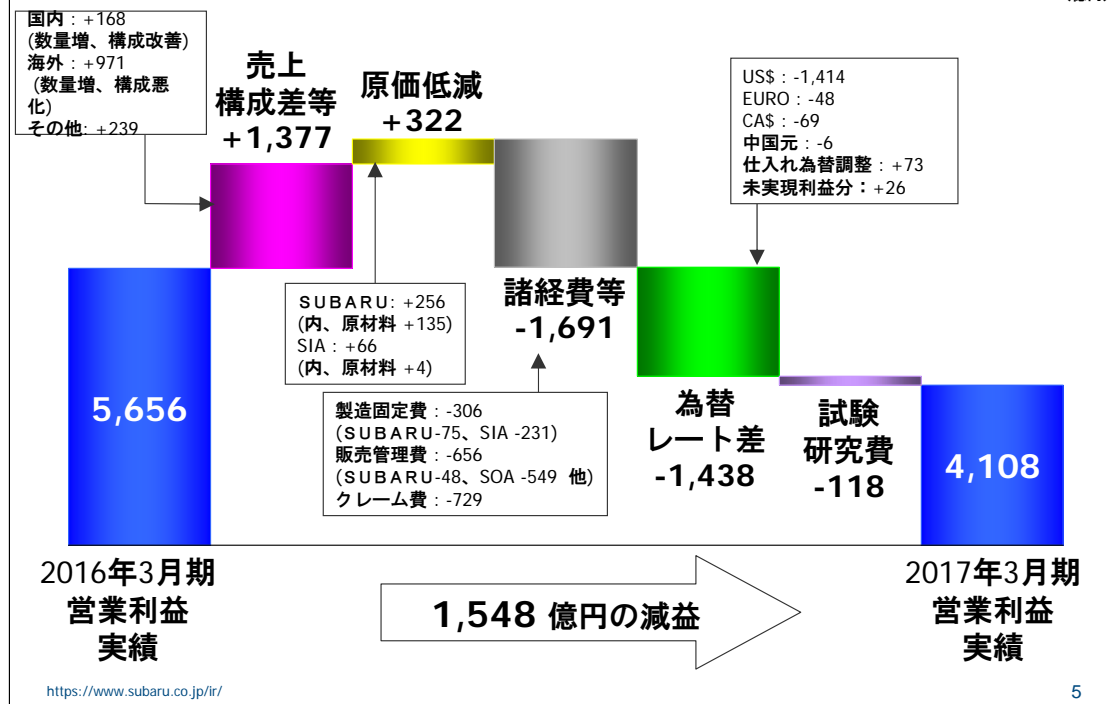
①製造固定費で-306億円、②販売管理費で-656億円、③クレーム費で-729億円。
 其々、費用が増加しまして、トータルで-1,691億円となりました。

①まず製造固定費について、SUBARUが-75億円、SIAは-231億円です。
 SUBARUの内訳は、外製型費減により+12億円、一方で固定加工費が増え-87億円。
 SIAは、外製型費の増により-44億円、固定加工費の増により-187億円となりました。生産規模を拡大しましたので、固定費が特にSIAで増えているという状況です。

通期実績 営業利益増減要因



(億円)



5

②次に、販売管理費の増加で-656億円。

内訳は、SUBARU-48億円、SOAは-549億円で、SOAの販売費が大きくなっているという状況です。

これは、米国の金利の上昇により、インセンティブに係るコストが大きくなっています。

施策としてはキャッシュインセンティブは実施しておらず、ローン、リースの費用負担が主な要因です。昨年の6月以降施策は変更しておらず、FRB金利の上昇によって調達金利が増えており、その分の費用が純粋に増えているという状況です。

単価で言いますと、2016年3月期が\$900でしたが、2017年3月期は\$1,450という単価で\$550増となりました。

この単価差が、インセンティブトータルで520億円の悪化要素となり、その内の単価による差が430億レベルという状況です。台数がハワイを除き8万3千台増となり、その部分で約90億円の減損となり、トータルで520億が大きな減損要素となっています。広告宣伝費等の増加で-29億円。

③次にクレーム費用です。

-729億です。大きな要因はエアバッグ関連のリコール引き当て費用となりました。

2016年3月期169億円に対し、2017年3月期が-567億円。398億円の増となりました。

エアバッグ関連以外のリコール、SOAのワランティ費用、製品補助引き当ても、全体的に台数が増えていることもあり増えている状況です。

<4>為替レート差で-1,438億円です。ドルは約12円の円高で-1,414億円です。

ユーロは約14円の円高で-48億円、カナダドルは約10円の円高で-69億円です。

その他、中国元で-6億円、SUBARUと海外子会社の仕入れ為替調整で+73億円、未実現利益分で+26億円となりました。

<5>次に試験研究費、118億円の増加についてです。

2016年3月期は1,024億円に対して、2017年3月期は1,142億円です。

以上のようなことから、2016年3月期5,656億円から2017年3月期4,108億円の営業利益となっております。

連結貸借対照表



(億円)

	2016年3月末	2017年3月末	増減
総資産	25,924	27,623	+1,699
流動資産	17,841	18,453	+612
固定資産	8,083	9,171	+1,088
有利子負債	1,700	1,483	-217
純資産合計	13,494	14,649	+1,155
利益剰余金	10,490	11,733	+1,243
自己資本	13,437	14,587	+1,150
自己資本比率	51.8%	52.8%	+1.0pt
D/Eレシオ	0.13	0.10	-0.02

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

6

続きまして、バランスシートです。

総資産につきましては、
2016年3月末から1,699億円の増加となる2兆7千623億円となりました。

主な要因は、有形固定資産の増加です。

有利子負債は217億円の減少となる1,483億円、

純資産は1,155億円の増となる1兆4千649億円となり、

自己資本比率は52.8%、D/Eレシオは0.10となりました。

通期実績 連結キャッシュフロー



(億円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減
営業活動CF	6,143	3,454	-2,688
投資活動CF	-2,557	-2,543	+14
フリーCF	3,586	912	-2,674
財務活動CF	-1,262	-1,890	-629
換算差額	-149	-30	+119
手元資金増減	2,175	-1,008	-3,183
連結範囲の変更に伴う現金 及び現金同等物の増減額	-1	-	+1
手元資金合計	8,295	7,286	-1,008

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

7

次に、連結キャッシュフローです。

営業活動によるキャッシュフローは、法人税等の支払2,082億円などがありましたが、税金等調整前当期純利益3,947億円の計上、未払費用の増加、これは主にエアバッグ関連のリコール引き当て費用と、インセンティブが増加したことによる期を跨ぐインセンティブのSOA支払費用882億円等から、3,454億円のキャッシュインとなりました。

投資活動によるキャッシュフローは、固定資産の取得による支出1,624億円、有価証券の取得による支出369億円、貸付けによる支出193億円などから、2,543億円のキャッシュアウトとなり、フリーキャッシュフローは912億円となりました。

財務活動によるキャッシュフローは、配当金の支払1,114億円、自己株式の取得による支出527億円、長期借入金の返済による支出217億円から、1,890億円のキャッシュアウトとなりました。

通期実績 海外子会社業績



(Million US\$)

SOA	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減
売上高	15,203	17,947	+2,744
営業利益	770	671	-99
当期純利益	480	421	-59
小売販売台数(千台)	581.4	625.0	+43.6

SIA	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減
売上高	5,468	7,525	+2,057
営業利益	209	236	+27
当期純利益	134	148	+14
スバル生産台数(千台)	236.0	335.2	+99.2

<https://www.subaru.co.jp/tr/>

8

次に、海外子会社の業績です。

SOAの小売販売台数は、SIAの生産能力増強により特にアウトバックが大きく販売を伸ばし、前年同期比4万3千6百台の増となる 62万5千台となりました。

売上高は、\$2,744Mの増収となる\$17,947Mとなりました。

営業利益につきましては、数量・構成差+\$358M、販管費の増-\$457M により、\$99Mの減益となる\$671Mとなりました。

SIAの売上高は、前年同期比+\$2,057Mの増収となる\$7,525Mとなりました。

営業利益につきましては、数量価格構成差+\$164M、原価低減活動+\$55M、固定費増-\$192Mにより、\$27Mの増益となる\$236Mとなりました。



2018年3月期 見通し

通期計画 連結完成車販売台数



(千台)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	増減
登録車	126.4	134.2	+7.8
軽自動車	32.5	37.8	+5.3
国内合計	158.9	172.1	+13.1
米国	667.6	687.7	+20.1
カナダ	53.1	54.6	+1.5
ロシア	5.3	6.6	+1.3
欧州	40.9	39.2	-1.7
豪州	49.1	52.6	+3.5
中国	44.0	42.3	-1.7
その他	45.6	50.5	+4.9
海外合計	905.6	933.4	+27.8
合計	1,064.5	1,105.5	+41.0

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

※ 中国 2017年3月期：暦年決算1～12月、2018年3月期：年度決算4～翌3月

10

次に、2018年3月期の見通しです。

販売計画ですが、110万5千5百台で、4万1千台の販売台数増を見込んでいます。

内訳は、国内が前年同期比1万3千1百台、
海外が前年同期比2万7千8百台の増となり、内アメリカが2万台増となります。

国内は1万3千1百台の内、5千3百台が軽となります。
登録車の7千8百台の内、約3千台弱がダイハツさんから供給頂いているOEM車の増です。
インプレッサが1万台増え、フォレスターが4000台強減る計画となっており、
台数は増えますが、販売価格面・利益面では小さいモデルが増えているという状況です。

続いてアメリカ市場ですが、販売台数が2万台増えています。
インプレッサが2万9千台、フォレスターが1万6千台増え、レガシィ・アウトバックが1万3千台、WRX1万1千台減るという車種間の入り繰りがあつたうえでの2万台となります。

その他の市場についても、おおむね新しいインプレッサが増えて、フォレスター・レガシィが減るという状況です。

フォレスターが2012年発売、レガシィ・アウトバックが2014年発売、レヴォーグが2015年発売ということで、少し時間が経ってきており、台数が減ってきている状況です。モデルライフサイクルの上で、どうしてもこういう時期が発生しますので、今はそういう時期だと考えています。

通期計画 連結業績



(億円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	増減
売上高	33,260	34,200	+940
国内	6,503	6,680	+176
海外	26,756	27,520	+764
営業利益	4,108	4,100	-8
経常利益	3,943	4,100	+157
税前利益	3,947	4,030	+83
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,824	2,850	+26
単独為替レート	¥108/US\$	¥110/US\$	+¥2/US\$

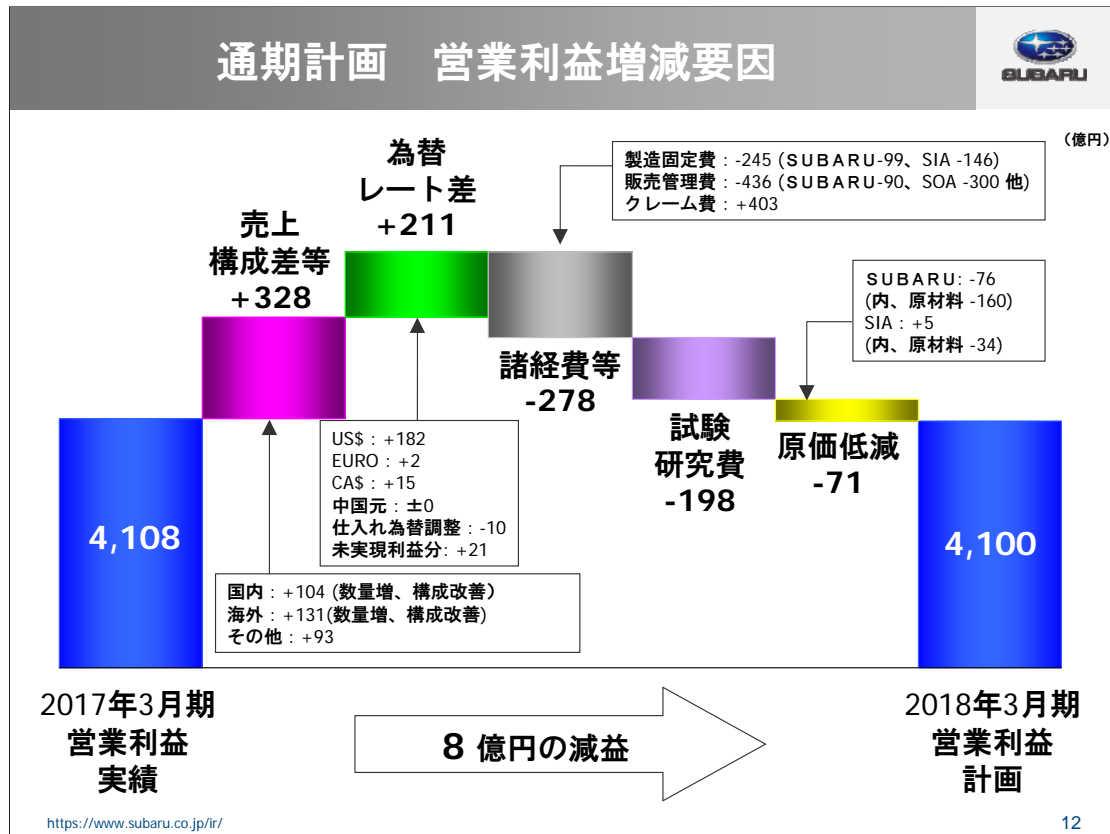
<https://www.subaru.co.jp/ir/>

11

次に連結業績計画です。

販売台数の増に伴い、売上高は940億円増となります、34,200億円を見込んでおります。

営業利益は、4,100億円。経常利益4,100億円、税前利益4,030億円、当期純利益2,850億円。為替条件は、2017年3月期に対し約2円安の110円で見えています。



12

営業利益増減です。

前期実績 4,108億円から8億円の減益となる4,100億円を計画しております。

増益要因は

<1> まずは売上構成差です。+328億円となり、内訳は、①国内 104億円、②海外131億円、③在庫調整等で+93億円となります。

4万1千台の台数増から考えると少ないと感じられると思いますが、価格帯の低いインプレッサが増える時期となる為、このような数値になっているとご理解頂ければと思います。また、ダイハツさんからシフォン、ジャスティという車を昨年新しくOEM供給頂き、その為に台数が増えたこともあり、台数に対し収益が上がっていないという状況です。

<2> 次に為替レート差です。

ドル+182億円、ユーロ+2億円、カナダドル+15億という状況です。ドルについては、2017年3月期 108.26円に対し、110円で見えています。ユーロは約1円、カナダドルは約2円の円安方向で見えています。

仕入れ為替調整で -10億円、在庫未実現利益分として+21億円を計画しています。

<3> 次に、諸経費の増は-278億円となります。

内訳ですが、①製造固定費が-245億円、②販売管理費が-436億円、③クレーム費が+403億円となります。

①まず製造固定費ですが、SUBARU本体が-99億円、SIAは-146億円です。

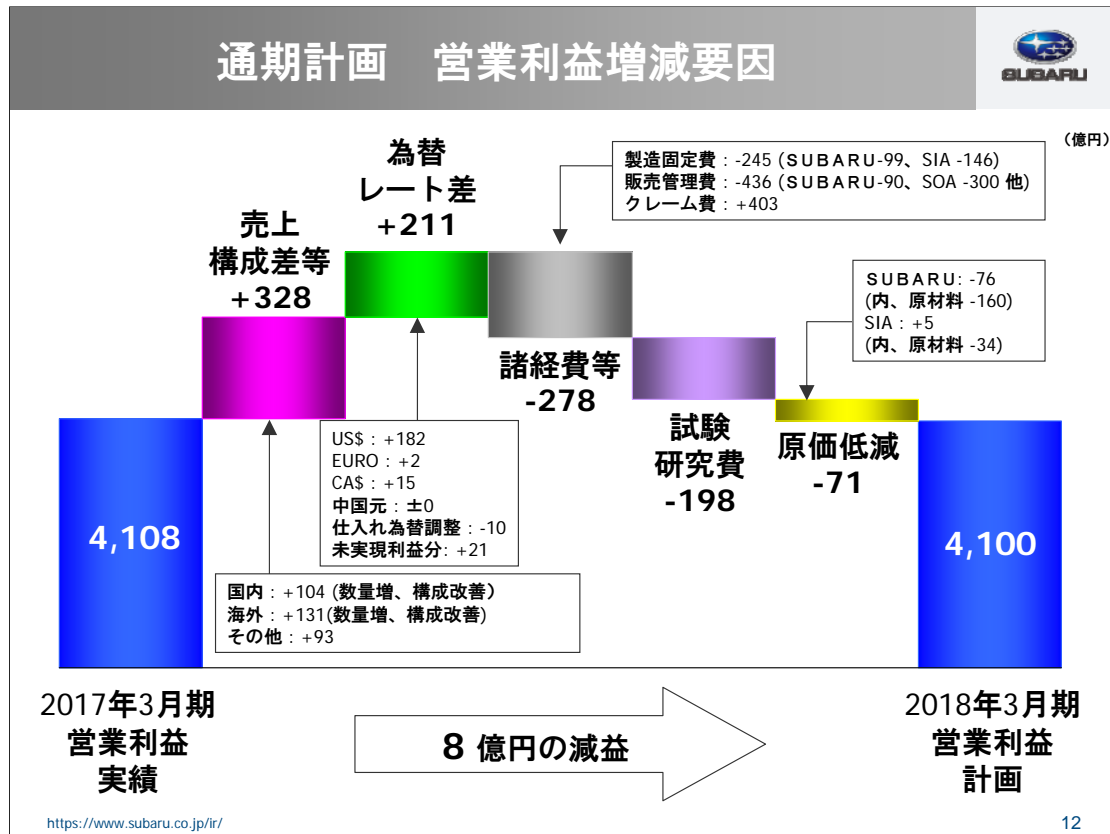
SUBARUは、外製型費の増により-61億円、固定加工費も増加し-38億円の減益要因。

SIAでは、外製型費の増により-66億円、固定加工費も増加して-80億円を見込んでおります。

②次に販売管理費ですが、SUBARU本体が-90億円、SOAが-300億円、国内ディーラーが-20億円が主な費用増のところとなります。SOAについては、2017年3月期のインセンティブが単価1,450ドルに対し、2018年3月期についての現在の見通しは400ドル増の1,850ドルで見えております。6月と9月に2回金利上昇があるであろうという事を織り込んだ数字にしております。さらには台数も増加することから -301億円。広告宣伝費等で+1億円を計画しています。

③続いて、クレーム費の減で+403億円です。

2017年3月期はエアバッグ関連のリコール引き当て金を567億円積みみました。それに対し、2018年3月期は115億円の引き当てを予定しており、差が452億となります。エアバッグ関連以外でも少しクレーム費用が増える予定です。



12

<4> 次に、試験研究費が2017年3月期1,142億円に対し、2018年3月期1,340億となり、198億円増となります。政策的に増やすということで約200億円増を予定しております。

<5> 次に原価低減で-71億円となります。

これまで原材料については軟化の時期が続きましたが、昨年の秋以来、原材料が高騰しています。

その影響が、特に今期になってから出てくるという状況です。

内訳は、SUBARUが-76億円。その内、原材料の市況が-160億、原価低減が+84億となります。

SIAでは原価低減が+39億円、原材料の市況の悪化が-34億円を見込みます。当社の場合、鉄・アルミ・銅・樹脂等については、6か月ごとに価格を決めています。貴金属については、1か月ごとです。つまりは、上期については大よそ確定しているという状況です。下期についてはそのままの数字を引いており、4-9月の原材料の市況によっては下期は変動の余地有りとお考えください。

以上の通りで、4,108億円(2017年3月期)からほぼ変わらない4,100億円となります。

皆様の想定より低くなりますが、売り上げ構成が低くなりやすい時期にさしかかっているということ。

諸経費の面では、エアバッグ関連の費用が減りますが、当社はキャッシュインセンティブを実施したり、施策内容を強化しているわけではなく、未だにAuto Dataの数値では3ケタの唯一ブランドですが、どうしても金利の調達分が乗ってきます。以前のように20万台ではなく70万台に近い販売台数になっている状況で、損益への反映の度合いが大きくなっています。

また、製造固定費も台数規模が大きくなり、設備投資もしてきたなりに固定費も増えているという状況です。原価についても、市況悪化の影響が出てきています。

少し違和感があったかと思いますが、このような内容の計画になったとご理解ください。

通期計画 海外子会社業績



(Million US\$)

SOA	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	増減
売上高	17,947	18,485	+538
営業利益	671	538	-133
当期純利益	421	338	-83
小売販売台数(千台)	625.0	670.0	+45.0

SIA	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	増減
売上高	7,525	8,376	+851
営業利益	236	215	-21
当期純利益	148	128	-20
スバル生産台数(千台)	335.2	381.1	+45.9

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

13

次に海外子会社の業績の計画です。

SOAの小売販売は、本格的にインプレッサが販売開始となりますので、前年同期比4万5千台の増となる67万台を目指していきます。

売上高は、\$538Mの増収となる\$18,485Mを見込みます。
営業利益につきましては、数量・構成差+\$148M、販管費の増-\$281Mにより、\$133Mの減益となる\$538Mを計画します。

SIAの売上高は、前年同期比 \$851Mの増収となる\$8,376Mを見込みます。
営業利益は、数量価格構成差+\$109M、原価低減活動+\$5M、固定費増-\$135Mにより、\$21Mの減益となる\$215Mを見込みます。

設備投資・減価償却費・試験研究費・有利子負債



(億円)

	2016年3月期 通期 実績	2017年3月期 通期実績 (a)	2018年3月期 通期 計画 (b)	増減 (b) - (a)
設備投資	1,357	1,585	1,500	-85
減価償却費	650	770	920	+150
試験研究費	1,024	1,142	1,340	+198
有利子負債	1,700	1,483	1,000	-483

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

14

最後に、設備投資、減価償却費、試験研究費、有利子負債についてです。

2018年3月期の設備投資は85億円の減となる1,500億円を計画しています。

設備投資額を減らしたというわけではなく、当初計画していた設備投資を少し後ろ倒しにする分があります。

減価償却費は、昨今設備投資を増やしてきましたので、150億円の増となる920億円、

試験研究費は、昨年1,142億に対し、約200億円増やし、1,340億円を計画しています。

有利子負債につきましては、2018年3月末で1,000億円レベルを目指していきたいと考えております。

次ページ以降は、セグメント情報や、今期上期業績計画の詳細、各種指標など、ご参考となります。

以上で2017年3月期決算の説明を終わります。

ありがとうございました。

ご参考 (1)

- 連結営業外収支 / 特別損益
- セグメント情報(事業別 / 所在地別)
- 海外売上高
- 単独販売台数
- 第4四半期(3ヶ月)業績
- 通期実績 計画との差
- 通期計画 第2四半期累計計画

通期実績 連結営業外収支 / 特別損益



(億円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減
金融収支	27	28	+1
為替影響	78	-90	-169
その他	9	-102	-111
営業外収支	114	-165	-279
固定資産売却益	3	9	+6
投資有価証券売却益	27	101	+74
貸倒引当金戻入額	302	-	-302
固定資産除売却損	-48	-42	+6
事業終了損失	-	-51	-51
減損損失	-0	-12	-12
その他	137	-2	-139
特別損益合計	420	4	-417

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

16

通期実績 事業セグメント別業績



(億円)

	売上高			営業利益		
	2016年 3月期 実績	2017年 3月期 実績	増減	2016年 3月期 実績	2017年 3月期 実績	増減
自動車	30,394	31,520	+1,125	5,436	3,977	-1,460
航空宇宙	1,528	1,388	-140	182	91	-91
その他*	400	353	-48	30	35	+5
消去・全社	/	/	/	8	5	-3
合計	32,323	33,260	+937	5,656	4,108	-1,548

* 2017年3月期第3四半期より報告セグメントの区分を変更、従来の「産業機器」は「その他」へ集約

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

17

通期実績 所在地別セグメント業績



(億円)

	売上高			営業利益		
	2016年 3月期 実績	2017年 3月期 実績	増減	2016年 3月期 実績	2017年 3月期 実績	増減
日本	9,621	9,705	+84	4,457	2,945	-1,511
北米	19,878	20,947	+1,069	1,155	1,059	-96
その他	2,824	2,608	-216	28	87	+60
消去・全社				17	16	-0
合計	32,323	33,260	+937	5,656	4,108	-1,548

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

18

通期実績 連結海外売上高



(億円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減
北米	21,045	21,923	+878
欧州	1,262	1,126	-136
アジア	2,373	2,113	-260
その他	1,589	1,595	+6
合計	26,269	26,756	+488

通期実績 単独販売台数



(千台)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減
国内生産	714.9	720.5	+5.6
国内売上	150.0	163.7	+13.7
登録車	114.4	129.6	+15.2
軽自動車	35.6	34.1	-1.5
輸出台数	576.5	570.7	-5.7
海外生産用部品	242.4	353.8	+111.3
単独売上合計	968.9	1,088.2	+119.3

※ 国内生産台数にはトヨタ86を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

20

第4四半期(3ヶ月)実績 連結完成車販売台数



(千台)

	2016年3月期 4Q 実績	2017年3月期 4Q 実績	増減
登録車	35.7	43.3	+7.6
軽自動車	9.7	10.2	+0.4
国内合計	45.4	53.4	+8.0
米国	136.4	166.3	+29.9
カナダ	10.9	12.6	+1.7
ロシア	1.0	1.3	+0.3
欧州	13.2	11.2	-2.0
豪州	11.7	11.2	-0.5
中国	14.3	12.0	-2.3
その他	12.9	10.8	-2.1
海外合計	200.3	225.3	+25.0
合計	245.7	278.7	+33.1

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

※ 中国：暦年決算10~12月 21

第4四半期(3ヶ月)実績 連結業績



(億円)

	2016年3月期 4Q 実績	2017年3月期 4Q 実績	増減
売上高	8,136	8,981	+845
国内	1,772	2,054	+282
海外	6,364	6,927	+562
営業利益	1,298	1,041	-258
経常利益	1,430	971	-459
税前利益	1,385	959	-427
親会社株主に帰属する 当期純利益	989	748	-240
単独為替レート	¥118/US\$	¥114/US\$	-¥3/US\$

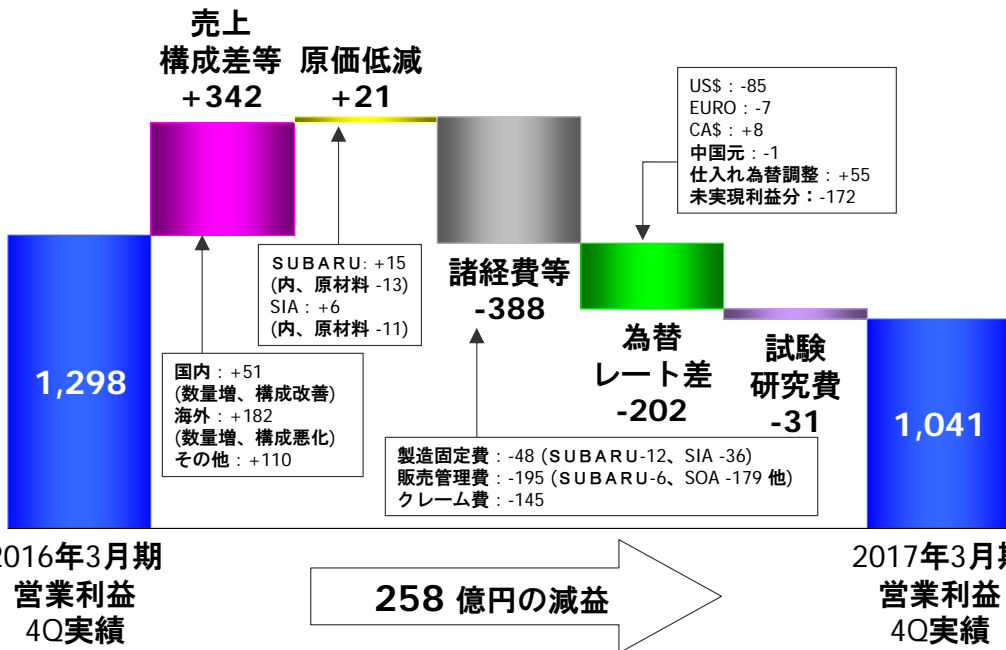
<https://www.subaru.co.jp/ir/>

22

第4四半期(3ヶ月) 営業利益増減要因



(億円)



<https://www.subaru.co.jp/ir/>

23

通期実績 連結完成車販売台数 計画 VS. 実績



(千台)

	2017年3月期 計画	2017年3月期 実績	増減
登録車	127.5	126.4	-1.1
軽自動車	34.0	32.5	-1.4
国内合計	161.5	158.9	-2.5
米国	667.4	667.6	+0.2
カナダ	52.9	53.1	+0.2
ロシア	5.6	5.3	-0.3
欧州	41.1	40.9	-0.2
豪州	49.5	49.1	-0.4
中国	44.0	44.0	±0
その他	45.6	45.6	-0
海外合計	906.1	905.6	-0.5
合計	1,067.5	1,064.5	-3.0

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

※ 中国：暦年決算1～12月 24

通期実績 連結業績
計画 vs. 実績



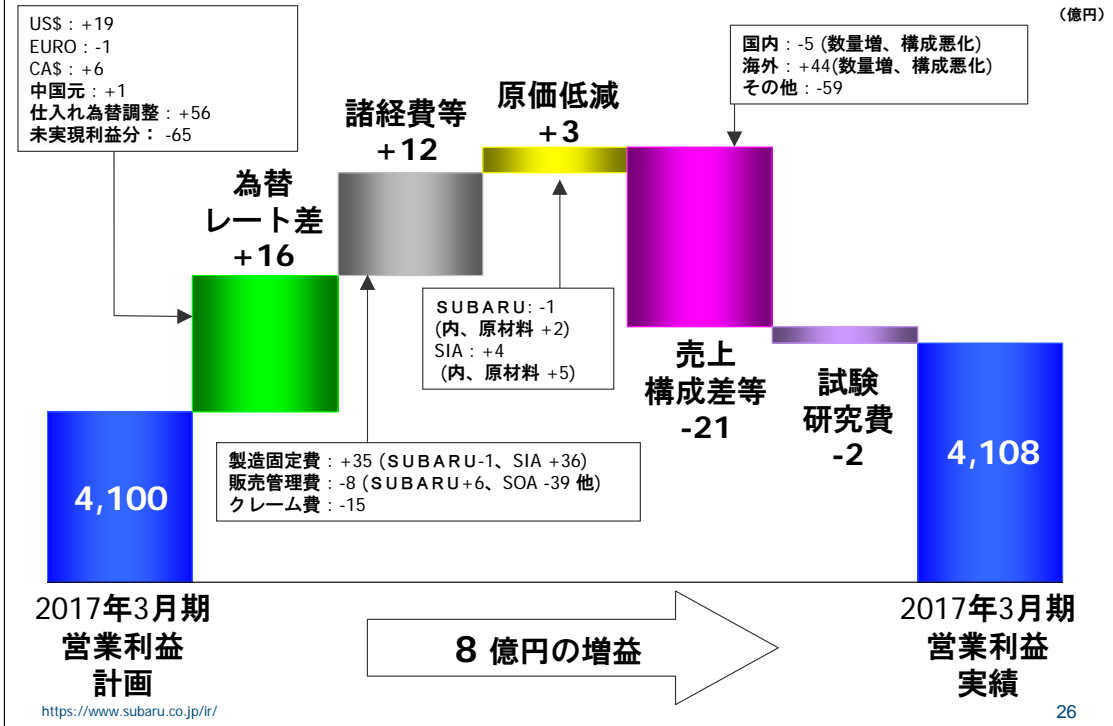
(億円)

	2017年3月期 計画	2017年3月期 実績	増減
売上高	33,100	33,260	+160
国内	6,511	6,503	-7
海外	26,589	26,756	+167
営業利益	4,100	4,108	+8
経常利益	4,120	3,943	-177
税前利益	4,120	3,947	-173
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,900	2,824	-76
単独為替レート	¥108/US\$	¥108/US\$	+¥0/US\$

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

25

通期実績 営業利益増減要因 計画 VS. 実績



第2四半期累計計画 連結完成車販売台数



(千台)

	2017年3月期 2Q累計 実績	2018年3月期 2Q累計 計画	増減
登録車	52.5	65.2	+12.7
軽自動車	15.6	17.4	+1.8
国内合計	68.0	82.6	+14.5
米国	326.9	335.0	+8.0
カナダ	28.4	30.1	+1.7
ロシア	3.7	3.7	-0.0
欧州	18.4	19.6	+1.1
豪州	22.4	27.3	+4.9
中国	21.8	21.9	+0.1
その他	22.3	22.2	-0.1
海外合計	443.9	459.7	+15.8
合計	512.0	542.3	+30.3

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

※ 中国 2017年3月期：暦年決算1～6月、2018年3月期：年度決算4～9月 27

第2四半期累計計画 連結業績



(億円)

	2017年3月期 2Q累計 実績	2018年3月期 2Q累計 計画	増減
売上高	15,777	16,890	+1,113
国内	2,860	3,286	+426
海外	12,916	13,604	+688
営業利益	2,085	2,100	+15
経常利益	2,278	2,100	-178
税前利益	2,356	2,070	-286
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,638	1,450	-188
単独為替レート	¥107/US\$	¥110/US\$	+¥3/US\$

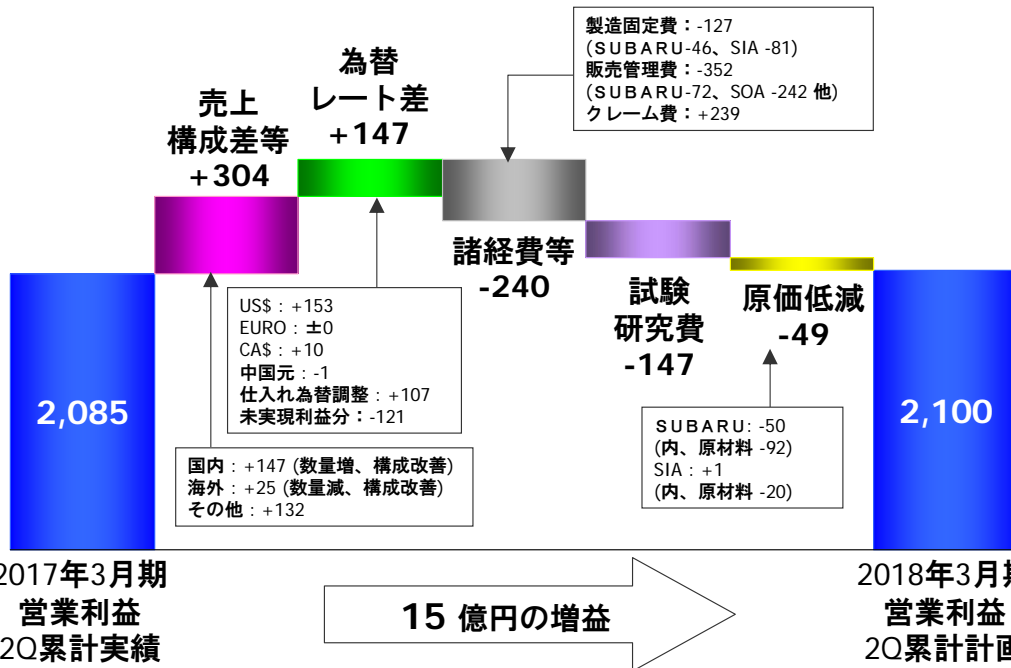
<https://www.subaru.co.jp/ir/>

28

第2四半期累計計画 営業利益増減要因



(億円)



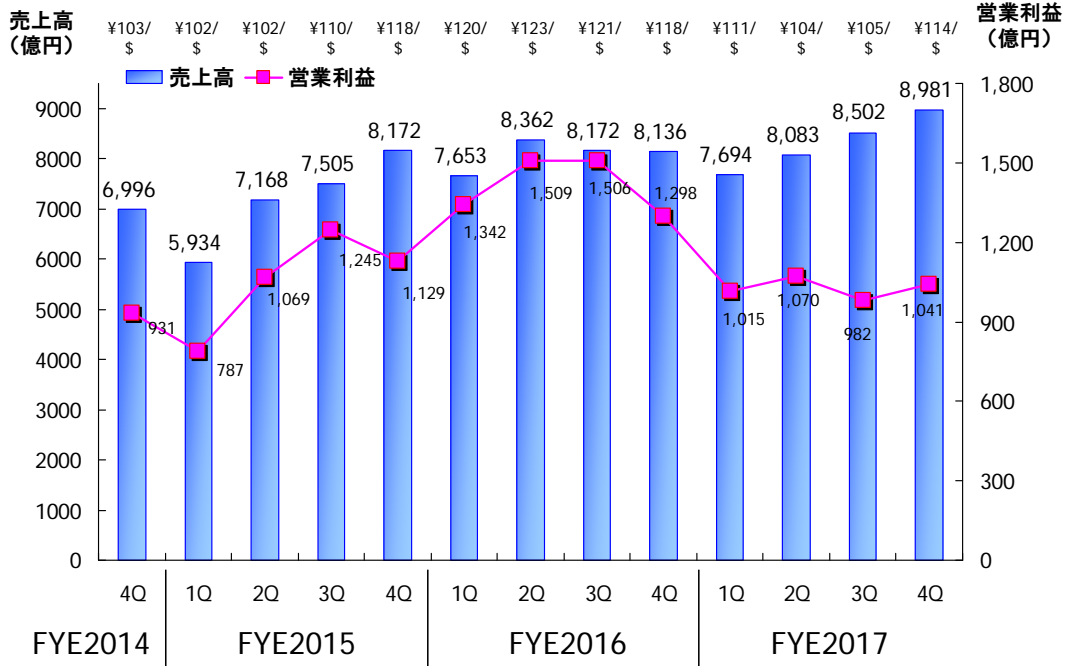
<https://www.subaru.co.jp/ir/>

29

ご参考 (2)

- 売上高 / 営業利益 推移
- 連結販売台数 / 営業利益率 推移
- 生産台数 / 小売台数 推移
- FCF / 自己資本比率 推移
- 有利子負債 / D/Eレシオ 推移
- 主な広報発表案件

売上高 / 営業利益 推移



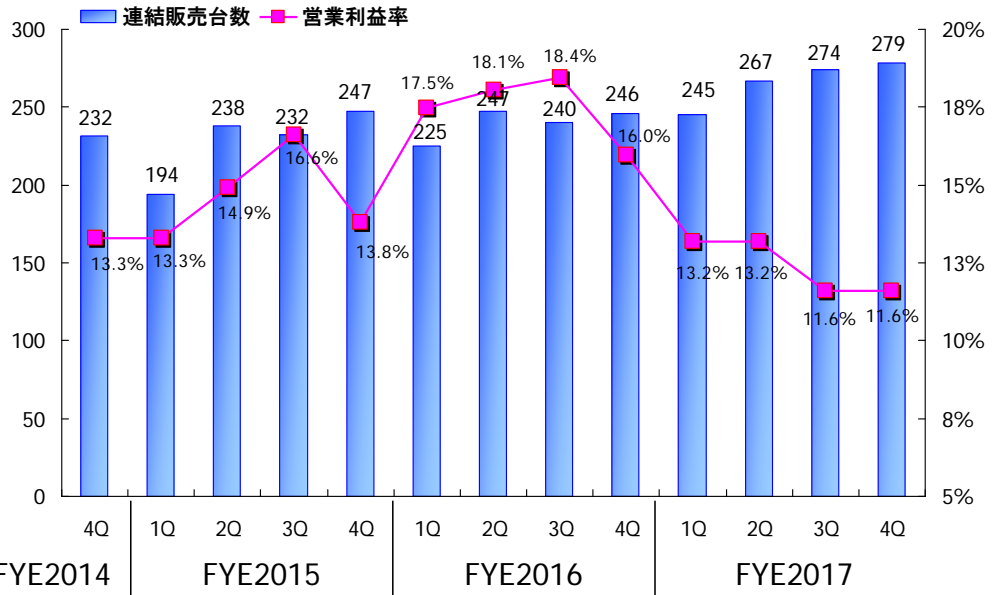
<https://www.subaru.co.jp/ir/>

連結販売台数 / 営業利益率 推移



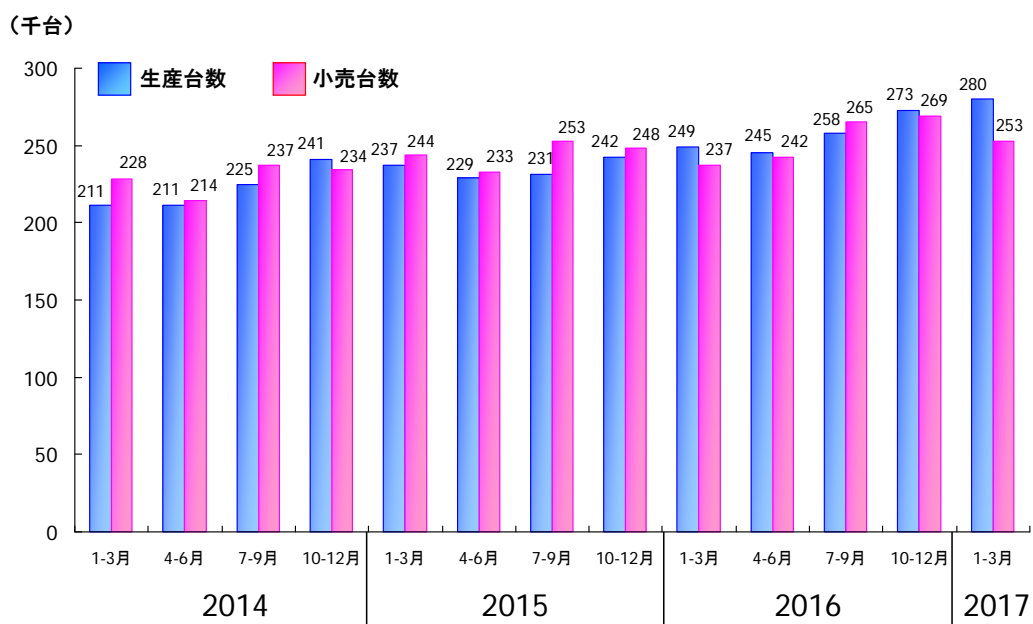
連結販売台数
(千台)

営業利益率



<https://www.subaru.co.jp/ir/>

生産台数 / 小売台数 推移

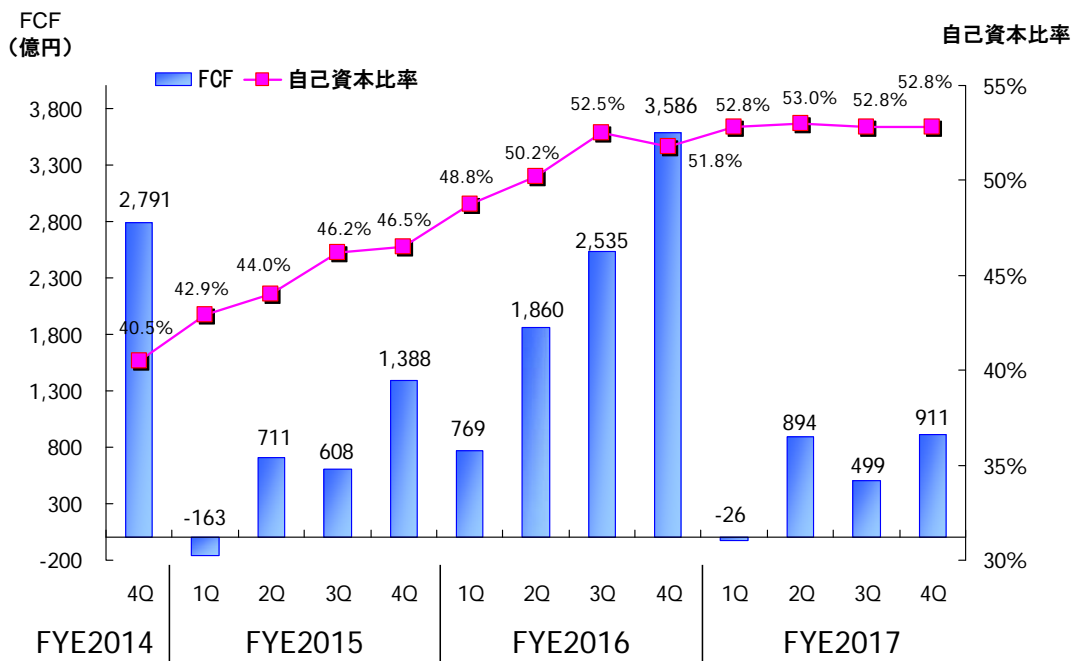


※ 生産台数にはトヨタ86を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

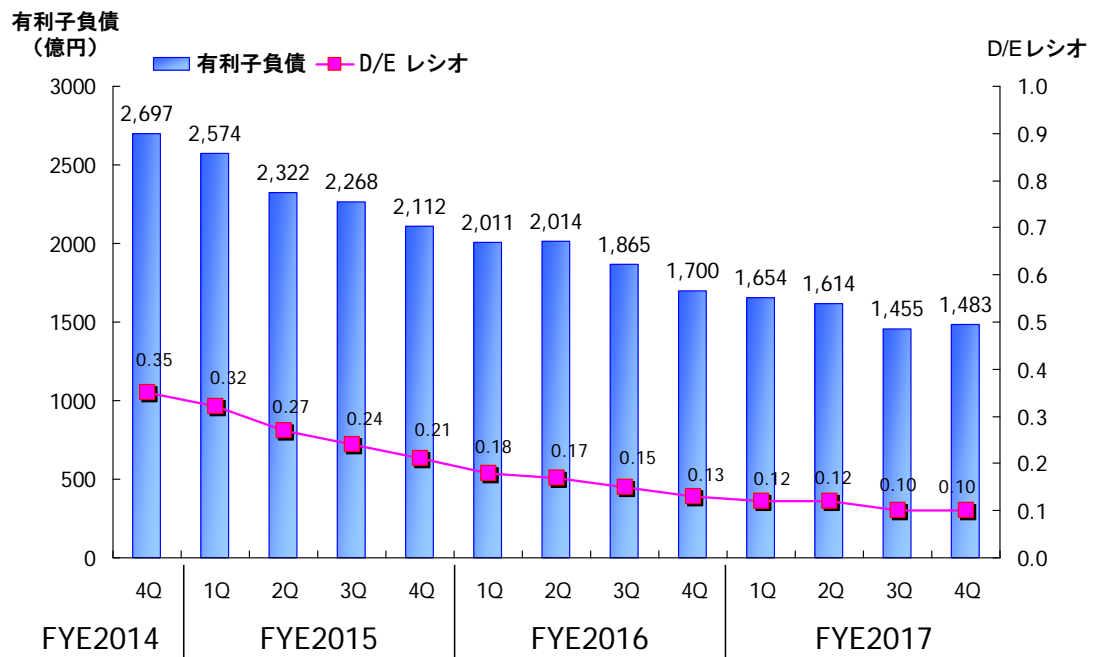
33

FCF / 自己資本比率 推移



<https://www.subaru.co.jp/ir/>

有利子負債 / D/Eレシオ 推移



<https://www.subaru.co.jp/ir/>

第4四半期 主な広報発表案件



(発表日)

経営関連

- タイでのCKD生産開始に向けた合弁会社設立へ (1/17)
- 「株式会社SUBARU」に社名変更を実施 (3/31)

商品関係

- 2018年型「WRX / WRX STI」を北米国際自動車ショーに出展 (1/6)
- 2018年型「レガシィ」をシカゴオートショーに出展 (2/3)
- 2017年型インプレッサが米国IIHSの2017年安全評価で最高評価「トップセイフティピック (TSP) +」を獲得 (2/22)
- コミュニケーションアプリ「マイスパル」サービスを導入 (3/2)
- 2017年ジュネーブ国際モーターショーにて新型「SUBARU XV」を世界初公開 (3/7)
- 新型「SUBARU XV」先行予約を開始 (3/8)
- CROSSOVER7 改良モデルを発表 (3/13)
- フォレスター 改良モデルを発表 (3/13)
- 運転支援システム「アイサイト」搭載モデルが国内累計販売台数50万台を達成 (3/16)

その他

- 群馬県の環境活動に対して寄付 (3/28)



本資料に記載されている計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報、予測に基づいた仮定、および判断であり、様々なリスクや不確実性を含みます。
将来における当社の実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、需要や為替レートの変動などにより、これらと異なる結果となる場合がございます。従いまして、この見通しのみにより全面的に依拠されることは避けて頂きますようお願い致します。

<https://www.subaru.co.jp/ir/>



SUBARU

<https://www.subaru.co.jp/ir/>